

令和5年度 学位記授与式の式辞

福井工業大学学長 掛下知行

卒業生の皆様、そして保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表してここよりお祝い申し上げます。また、本日大変お忙しい中ご出席を賜りました、福井県副知事の中村保博様、また、大阪大学 工学研究科長 桑畑進様、永平寺町長 河合永充様をはじめとする多くのご来賓の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

本日ここに、学部 545 名（工学部 282 名、環境情報学部 183 名、スポーツ健康科学部 80 名）、大学院博士前期課程 16 名（応用理工学専攻、社会システム学専攻）、博士後期課程 2 名（社会システム学専攻）の方々に学位を授与することが出来たことは、私どもの深く喜びとするところであります。学部は 4 年、大学院は 2 年ないし 5 年の間、勉学と研究に専念されて本日卒業し、社会に出て行くみなさまが、それぞれの分野で活躍し、日本の、また世界の産業と社会の発展のために大きく寄与されることを私ども教職員は心より祈念致しております。

特に皆様方に置かれましては、ほぼ 3 年間、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、大学の入構制限や一部遠隔授業を行いましたため、卒論や学位論文を完成するに際して、様々な困難に直面したと思います。また学生生活や日常生活を送る上でもいろいろと不便があったかと思います。そうした、大変な状況の中で、諦めず、くじけず、忍耐強く、卒業までたどり着いた努力に対し、心より敬意を払いたいと思います。福井工業大学で経験した、この経験が、社会に出た後も皆さんの、血となり肉となり、皆さんの背中を押してくれることになります。

卒業は、述べましたように、第一に皆さんの努力が身を結んだことによりますが、同時に、これまで皆さんをいつくしみ育ててくださった、保護者の方々のおかげでもあります。今まで育てて頂いたことに改めて感謝してください。

皆様の旅立ちに際し、皆様こそが、コロナ収束後の社会変革の担い手として強く期待されているというお話を以下に述べるとともに、これから社会生活する上で必要な資質（それは、しなやかさでありリーダーシップを発揮する能力等です。）を述べて、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

ご存知のように、コロナ禍により、日本においても、世界においても、社会の在り方や、人々の考え方は大きく変わりました。

これまで当然のこととされていた考え方、価値観や生活様式、教育、企業活動、社会活動などすべてが劇的に変化しつつあります。このようなことを「パラダイムシフト」と言います。皆様は人類の歴史において、未曾有のパラダイムシフトの時に卒業され、新たな道に進まれることになります。この旅立ちに、不安を抱いている方も多数おられると思いますが、それは違います。このパラダイムシフトの時期には人間にとって極めて有用な大きな変革を、短期間で、しかも若い力で、達成することが歴史的には良く知られています（例えば産業革命があげられます。今回で言うなら、生成

AI であると思います。) )。ですので、皆様は、正にコロナ収束後の社会(Post Corona)変革の担い手として強く望まれ、そして大いに活躍することができます。

今回コロナ禍の大きな変革に相当する課題として、具体的な例を挙げますと、新たなワクチン製造開発(m-RNA を用いたワクチンは、2023 年にノーベル賞を取られたカタリン・カリコ博士等の研究が基になる。)や AI そして 5G を含むネット社会の構築があげられます。これらの課題は、これまで培ってきた科学技術をもって日々努力がなされておりますが、まだまだ完全・完成とは言えません。また、コロナ禍により加速された非常に多くの未解決な問題(少子高齢化、カーボンニュートラル、水素エネルギー、SDGs で掲げられている課題、新たなデザイン創成、新たなシステムの構築等)の露呈を、皆様は、実体験で感じられていると思います。

この状況からも、解るように、若い皆様の活躍の場は、あらゆる分野(従来の文系理系に関わらない)に開かれていることとなります。したがって、コロナ収束後の社会(Post Corona)に、就職の問題や会社での課題等、多くの不安を感じておられるかもしれませんが、それは違っていることが解ると思います。ですので、自分のアイデアやひらめきを大切にその実現に向かって邁進されることを切に願います。

次に、これから社会生活する上で必要な資質(しなやかさ、リーダーシップを発揮する能力等)を、「地震と五重の塔」の話からと宇宙飛行士である若田光一さんが語っていることを参照し紹介します。

まず、「地震と五重の塔」から始めます。

卒業生の皆さんが活躍されるこれからの日本の社会は、経済成長が伸び悩み、少子高齢化と多様化が進みます。そのような中で、AI や SNS といった高度情報化社会が一段と進み、未来をなかなか予測できない時代です。このような社会の中で、思い通りにいかず、一人で思い悩むこともあると思います。そのような時、ひとり一人が未来を切り拓いていく力、すなわちどのような外力にも耐える個の力、言い換えれば強い個性を備えておくことが必要となります。

それでは、どのような個性を身につけておくべきかについて、話をしたいと思います。話の内容は先に述べました「地震と五重の塔」についてです。

この1月1日には能登半島で大きな地震が発生し、250名に近い方が尊い命を失い、たくさんの家屋が倒壊しました。今日の卒業生の中にも実家に帰省していて、被害を受けた方もいると思います。

この能登半島地震において被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

地震というのは、いつ、どこで、どのぐらいの大きさの地震が発生するかは、今の科学技術でも予測することはできていません。能登半島の地震が発生した際に皆さんのスマートフォンから出された緊急地震速報も、地震が発生した後に発せられる警報で、地震の揺れに比べ警報が遅れることもあり、予報ではありません。そのため地震に強い建築を作るためには、不意に来る地震すなわち

外力に耐える設計をしておくことが必要となります。

そこで五重の塔の話ですが、ご存知のように、五重の塔は塔の真ん中に心柱（しんばしら）という細い柱があり、その外側に五層の屋根のついた木造の建築物です。その内部にはたくさんのお木組み（きぐ）み重なって出来上がっている伝統木造です。古いものとしては、世界遺産となっている世界最古の木造建築である奈良法隆寺の五重の塔が有名で、西暦 700 年ごろに建立されました。このような日本各地にある五重の塔ですが、過去の大地震で被害を受けたという記録は少なく、そのため、今の時代でも私たちは歴史ある多くの塔を仰ぎ見ることができるわけです。

それでは、なぜ長い歴史の中で地震に耐えることができたかですが、分析の結果によれば、スレンダーな形をした五重の塔が地震の揺れに応じて揺れるモード（形）を変える「しなやかさ」と、塔の内部を構成する心柱やたくさんのお木組みが揺れてお互いにこすれあうことで地震のエネルギーを吸収する「したたかさ」を持ち合わせていることが分かってきました。五重の塔を作った昔の人々がこのようなことを意図して設計したかどうかは分かりませんが、この五重の塔の「したたかさ」と「しなやかさ」が長い時代を通して大きな地震に耐えてきた理由です。この話は、皆さんのこれからの人生にも通じることであり、心身ともに「したたかさ」と「しなやかさ」を持ち合わせて今の時代を生き抜いてほしいと思います。

つぎに、社会で活躍するためには組織の中で、リーダーシップを発揮する能力を身につけることも必要となります。

リーダーシップについては、本学が「宇宙×AI」をブランドとして展開していますことを考慮して宇宙飛行士である若田光一さんが語っていることを紹介します。

若田さんは、地上 400km の宇宙空間を秒速 8km で周回する国際宇宙ステーション（ISS）の日本人初のコマンダー（船長）を務めた方で、宇宙滞在時間も累計で 504 日 18 時間 35 分と、日本人最長記録をもっています。宇宙ステーションでは、世界各国から集まったクルー（乗組員）の船長を務めたわけですが、若田さんが心がけていたことの 1 つは「守りに入らない」ことでした。守りに入ってしまうと、自らの成長は止まり、後は衰退あるのみということで、あらゆることに対して「これが本当に最善か？ 正しいのか？」と現状を疑い、より良い方向に改善し続けてきたということです。そして、ミッションを達成するために、リスクや失敗を怖れず、勇気を持って挑戦し続けたということです。

もう 1 つは、「思いやり」を持つことでした。良い行いに対してはすぐに称賛する。一方で、リーダーである以上、乗組員に対して厳しいことも指摘しなければならない時には、慎重に言葉を選びつつ、指摘する目的を具体的に説明し、改善したら個人・チームにとってどのような効果が得られるのかを、きちんと伝えたそうです。そうすることで初めて、相手も心を開き、思いやりを持って接してくれるようになったそうです。

このように、若田光一さんの言葉は、組織を動かすためのリーダーシップ論を教えてくれています。

以上に述べましたように、コロナ収束後の社会変革の担い手として強く期待されている皆様は、

困難にはしなやかさで対応し、かつ、「守りに入らない」意識を持ってリーダーシップを発揮し、人と接する際には思いやりを抱いて接することを務めていただき、皆様が描いた大きな夢を実現するよう日々研鑽し、これからの社会の発展に貢献するよう願っています。

今年の（2024年の）干支は「甲辰（きのえたつ）」で、甲辰は「成功という芽が成長していき、姿を整えていく年」という意味があり、昇り龍などに描かれるように、勢いよく活気あふれる年になるといわれています。とても明るく、活力がみなぎる年ですね。皆様のご卒業に際し、心からのエールを送り、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。